

8 月 19 日 14:00 解禁

2026 年 8 月 19 日

報道関係各位

薬用作物（生薬）産地化推進のための 行政担当者情報交換会

薬用作物産地支援協議会

昨今、国内において漢方製剤・生薬の需要が拡大する中、生薬の原料は約 8 割を中国からの輸入に依存しています。一方、中国国内での生薬の需要量の増加により、今後の安定的な原料調達に懸念が生じています。

今後、安定的な原料調達先の複線化の必要性が高まっていることから、その対策の一つとして国内産原料の生産拡大が求められています。

薬用作物産地支援協議会では、関係機関や団体等と連携し、生産者側と実需者側とのマッチング、栽培技術指導者の育成、各種情報の発信等を行い、各地域における産地化の取り組みを推進しています。

今回は、行政担当者を対象とした情報交換会の場として、先進的な取り組みをされている産地の紹介および意見交換を通じて、薬用作物の産地化を促進することを目的として開催いたします。

本会は、会場もしくは Zoom によるオンラインでご参加いただけるハイブリッド形式にて開催いたします。

ぜひ、別紙開催内容をご参照の上、お申込みいただきご参加賜りますようお願い申し上げます。

以上

【お問合せ先】

薬用作物産地支援協議会事務局

TEL：03-6264-8087

FAX：03-6284-2534

E-mail：soudan@yakusankyo-n.org

薬用作物（生薬）産地化推進のための行政担当者情報交換会

【開催日時】 2026年9月1日（火）13：30～16：15

【開催会場】 AP 東京八重洲7階 ROOM P
（東京都中央区京橋 1-10-7 KPP 八重洲ビル）

【プログラム】

1. 挨拶

- ・薬用作物産地支援協議会（主催者）
- ・農林水産省

2. 「秋田県美郷町における薬用作物栽培」

秋田県美郷町 町長 松田 知己 先生

<内容>

美郷町は江戸時代に生薬栽培が行われていたこと、遊休農地の新たな活用方法を見出すことをきっかけに、生薬原料供給地を目指す“生薬の里 美郷”構想を策定し、関係機関の指導のもと、キキョウやカンゾウなどの生産・出荷体制づくりへ取り組んできた。構想の立ち上げから10年が経過し、ここに至るまでの苦労や今後の課題等について紹介する。

3. 香川県三豊市における薬用作物栽培

香川県三豊市 市長 山下 昭史 先生

<内容>

令和2年に「みとよ薬用作物生産組合」を設立し、薬用作物の産地化を目指した取組を進めている。生産性の向上や栽培技術の確立に加え、新たな生産者の掘り起こしや栽培を継続するためのきめ細かなフォローアップを重視してきた。その結果、生産者数は年々増加し、栽培面積も拡大している。本講演では、これまでの取組、成果や課題、今後の展望等について紹介する。

4. 意見交換会

薬用作物産地化に関するご質問等

※ 講演内容ほか、事前にいただいた質問の質疑応答を含む

5. 名刺交換会（会場参加のみ）

【オンライン参加の方へお願い】

- ① ご参加の際は、ご所属とご氏名が表示されるよう（ZOOM）設定をお願いします。
- ② 当日の資料については、下記アドレスより配布資料をダウンロードした上でご聴講ください。

【配布資料 URL】 <https://www.yakusankyo-n.org/event/y2026.htm>

「薬用作物(生薬)産地化推進のための行政担当者情報交換会」

参加申し込み(報道関係)

下記をご記入のうえ、FAX かメール添付にてお送りください。

- * ご希望の参加方法を○印にてご記入ください。
- * オンラインでの参加をご希望の場合、お知らせいただいたメールアドレスに後日、Zoom のご案内をお送りいたします。
- * お申込みは、開催前日の 16 時までにお問い合わせいたします。

期日・会場	会場で参加	オンラインで参加
2026 年 9 月 1 日 (火) AP 東京八重洲		

貴 社 名
ご 芳 名
メールアドレス

お申し込み先 薬用作物産地支援協議会 事務局

FAX 03-6284-2534

メール soudan@yakusankyo-n.org